

宜野湾高校の生徒達へ（44）

2020.9.24

新聞を見て、「何のこと？」と思った。その記事がこちら。

「拘束されているときに『不協和音』の歌詞がずっと頭の中で浮かんでいました」。香港の民主活動家で香港国家安全維持法違反の疑いで逮捕された周庭(アグネス・チョウ)氏が保釈後に発した一言をきっかけに、3年前に発表されたアイドルグループ欅坂46の代表曲が再び注目されている(8.20:朝日新聞:一部引用)。



アイドルグループの曲が、香港民主活動家の心の支えとなった？ どんな歌詞なのか？

僕は Yes と言わない。 ぜったい沈黙しない。 最後の最後まで抵抗し続ける

不協和音で 既成概念を壊せ!

みんな揃って同じ意見だけでは おかしいだろう 意思を貫け!

ここで主張曲げたら 生きてる価値ない 欺きたいなら 僕を抹殺してから行け!

これは、従来のアイドルグループの歌詞ではない。そこで、同曲を提供した秋元康氏(AKB48 など数々のアイドルグループを手がけてきた作詞家)の話の聞いてみよう(日経エンタテインメント 2016. 10. 12)。

10代半ばの世代というのは、自分たちの価値観について迷うわけです。

だから、欅坂46だけではなく、AKB48 や乃木坂46のメンバーにもよく話すんですが、

人生というのは1つの線でパッとデザインすることはできない。

柔らかい鉛筆で何本も何本も輪郭を描いていくように、

たくさんの間違った線が結果として輪郭になるんだと。

この世代はその柔らかい鉛筆で何本も間違った線を描くからこそ、

見えてくるものがあるんだと思うんですね。

もしかしたらその世代の「迷いや戸惑い、思い込み」といったものが僕の頭の中にあって、それが詞として出てくるのかもしれないですね。

大人からするとなんでもないことでも、

感受性豊かな世代には

「アスファルトの上で雨が口答えしてる」

ように聞こえちゃうわけだから。

そういう意味では、欅坂46では自問自答や、

彼女たちの迷いそのものを描きたかったんだと思います。



秋元氏の発言を聞いて、あさのあつこさんの「大人の価値観にしばられず、自分を認めてほしい」(『宜野湾高校の生徒達へ(43)』)が頭に浮かんだ。「不協和音」を「二つ以上の音が同時に出了れた時、全体が調和しないで不安定な感じを与える和音」とするならば、「大人の価値観」や「自分たちの価値観」がぶつかり合った状態が「不協和音」と言えまいか？

「不協和音」は不安定で、そのなかで間違った選択をするかもしれないが、それが「たくさんの間違った線が結果として輪郭になる」と考えれば、「自分らしさ」を創り上げていく中で必要な作業かもしれない。

欅坂46「不協和音」のパフォーマンスを見ながら、感受性豊かな世代と接する心の持ちようを思うとともに、「私にもそんな時代があったのだとなあ」と感慨に耽るのであった。

沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎